

研究開発領域
「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」

領域総括

山田 肇(東洋大学)

研究開発領域発足の動機

- ストーカーやDV、児童虐待、高齢者を狙った詐欺事件、ネットいじめ等の問題は、研究や対策を超えて、変化・深刻化しているのではないか
- 現実や地域の問題に対応できるよう、公／私協力して、発見、介入（支援）できる仕組み、その活動に資する制度と技術を提示したい

研究開発領域のアウトカム(最終目標)

- 私的な空間・関係性で起きる安全・安心上の問題の顕著な減少
 - 合理的な制度、社会資本の適正な配分に配慮した仕組みへの合意形成の契機となる
 - 公的なセクター間、公的セクターとNPO・支援者が連携し活動できる施策・仕組みができる
 - ビッグデータや各セクターに今まで埋もれていたデータが活用される
 - 一般の生活者の意識が変わる

研究開発領域全体の取り組みイメージ

アウトプット	研究開発プロジェクトのテーマ例
①社会システム・制度の創生と伝承	<ul style="list-style-type: none"> 新しいプライバシー概念の提示と個人情報等の利用の拡張に関する研究開発 複数の関係公的機関での情報共有・連携を促進する法制度のあり方等の研究開発 ...
②配慮が行き届き適切に介入・支援をする社会技術の創出 公／私協力する仕組み”間”	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティにおける多くの支援機関・家族・住民等の情報共有・連携システムに関する研究開発 養育や介護に関わる支援（個人、NPO等）の増強に関する研究開発 ...
③情報通信技術等の利活用による新たな支援機能の構築	<ul style="list-style-type: none"> 過去事例のビッグデータ解析を用いた予防と早期対応のための研究開発 IoT(Internet of Things)等を用いた予防と早期対応、記録等の研究開発 ...

研究開発領域の目標

- 発見・介入しづらい空間・関係性における危害、事故の予防と低減に資する新たな手法を現実の問題とニーズに基づいて提示する
- これらの成果をもとに、発見・介入しづらい空間・関係性における危害や事故の予防と低減に資する制度・政策とその実現可能性を提示する
- 提示する取り組みや施策が継続的に実施されていくために、社会システムへの統合可能性という観点で、これらの手法を導いた思考・考え方を共有するネットワークを構築する

昨年度採択プロジェクトの概要

“間”

田村：親密圏内事案への警察の
介入過程を見える化

仲：被害者の負担を軽減する、多専
門連携による司法面接の実施

成本：高齢者の経済活動を見守る
金融機関・病院・自治体などのNW

黒田：先端医学技術や国際比較研
究を用いた効果的な養育者支援

森田：児童相談所の相談データから、
児童虐待を予防・早期介入

公的空間

私的空間

期待する研究開発

- 横断的視点：さまざまな事象の背景や対処策にみられる共通の制度上の問題の研究開発
- 現実社会に適用できる成果：社会資本の適切な配分に配慮した、制度設計に資する、現場を対象にしたエビデンスの積み上げ
- 予防に着目した、新しい”間”の仕組み：対象とする人々の援助希求行動にも配慮が行き届いた予防と低減に結び付く研究開発

横断的視点の強いプロジェクトの例

“間”

新しいプライバシー概念の
提示と個人情報等の利用の拡張
に関する研究開発

多様なステークホルダーによる情
報連携と適切な情報共有により、
予防と早期対応を実現するシステ
ム

公的空間

私的空間

現場を対象にしたプロジェクトの例と留意点

“間”

コミュニティにおける多くの支援機関・家族・住民等の情報共有・連携システムに関する研究開発

公的空間

「全国展開」への知見が得られ、提言に結び付くこと

- 国による(全国規模の)制度見直しのきっかけになる
- 同様の事情を抱える他地域でも適用できる方法を実現する

私的空間

人権の保護と法令遵守

- 研究構想を実施するにあたって、
 - 相手方の同意・協力を必要とする研究
 - 個人情報取り扱いの配慮を必要とする研究
 - 生命倫理・安全対策に対する取り組みを必要とする研究等
- 法令等に基づく手続きが必要な研究が含まれている場合には、研究機関内外の倫理委員会の承認を得る等必要な手続きを行うこと